

# 熊本地域医療センターだより

院長 清住雄昭

熊本地域医療センター電話番号(代表) 096-363-3311 FAX 096-362-0222

平成30年(2018年)7月発行

通算158号

2018 7月号

熊本地域医療センター理念

かかってよかった。

紹介してよかった。

働いてよかった。

そんな病院をめざします。

CONTENTS

2面 日本医療機能評価機構

3面 新任師長あいさつ / 食物アレルギー負荷試験

4面 抗菌薬適正使用支援チーム

## 昇任挨拶および栄養部門について

調理栄養管理係長 上田 葉子



平素より、私たちの活動にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。長年にわたり栄養部門の責任者として勤め、定年を迎えた関香係長の後任として、4月より調理栄養管理係長を拝命しました上田葉子と申します。これまで日々の業務と関係長のサポートに努めて参りましたが、これからは栄養部門全体の責任者という立場になります。私にその器があるのだろうかと不安や戸惑いを覚えましたが、とにかく一生懸命取り組むことで身につくことや見えてくることがあると考え、微力ながらも熊本地域医療センターに関わる皆様に貢献できるよう努力する所存です。

栄養部門は現在、これまで当部門を支えてきた経験者に加え、新たに管理栄養士や調理師(調理員)、管理栄養士をめざす研修栄養士がスタッ

フとなり、雰囲気も随分と変わりました。そこでこれからの方針を考える上でベースとなるのが当院理念「かかってよかった」。紹介してよかった。働いてよかった。そんな病院をめざします。」です。栄養部門もその役割を遂行するため、目標として”①安全安心な食事提供、②病棟業務・NST活動による栄養管理の充実、③積極的な栄養指導への取り組み”の3つを掲げました。①については衛生管理や適時適温を徹底するために、日々話し合いながら反省や検討を繰り返し、改善を図っています。②については各病棟に担当管理栄養士を配置して、様々な対象者へきめ細かい栄養管理を実施、週1回はNSTで多職種によるラウンド、カンファレンスを行い、疾病治癒促進や栄養状態、嚥下機能の改善、褥瘡予防・治療に取り組んでいます。③は各病棟と外来の担当管理栄養士が、医師の指示に基づき患者さんやスタッフに働きかけて栄養食事指導を行い、件数

も増加しています。医師会会員の先生方からも、外来栄養指導のご依頼をいただいており、地域医療に貢献できるような栄養食事指導の充実を目指しています。

時代とともに疾病や社会構造は変化し、各種関連法規・診療報酬・養成施設カリキュラム等の変遷がありました。世代によってスタッフの知識や経験、価値観も千差万別です。適切で柔軟な対応をしていくためには、私自身情報収集に努め、判断力を磨くことが大切だと思っています。それと同時に、一人でできることは限られますが、栄養部門のスタッフそれぞれの長所がたくさんありますので、個性を生かし、協力しながら前進して参りたいと思います。患者さんやご紹介していただいた先生方に少しでも満足していただけるよう頑張りますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

# 病院機能評価を終えて



日頃より熊本地域医療センターならびに地域医療連携室をご利用頂きありがとうございます。

過日、「センターだより」4月号にてご報告させて頂きました通り、当センターは日本医療機能評価機構の審査を受け、病院医療機能評価認定に合格することができました。これもひとえに会員の先生方をはじめ、地域の皆様のご支

援とご指導の賜物と感謝申し上げます。

S評価は病院全体としても2項目となっております。具体的には、①「必要な情報を地域等へわかりやすく発信している」②「地域の医療機能・医療ニーズを把握し、他の医療関連施設等と適切に連携している」と評されており、地域医療連携室の地道な取り組みについて一定のご理解を得たものと安堵いたしました。また、震災直後の大混乱のなかでも、この「センターだより」（毎月発刊）を休刊する

地域医療連携室 牛島 敬司

ことなく情報発信を行ってくれた担当職員たちの努力が少し報われた気がしております。今回の結果に甘んじることなく、医療連携のために職員一丸となり努めて参ります。

今後とも、地域医療連携室をよろしくお願い申し上げます。

末筆ではございますが、少々手前味噌な記述が含まれておりますことをご容赦頂ければ幸いです。

# 病院機能評価を終えて 「良質な医療の実践」における退院支援



「患者・家族への退院支援を適切に行っている」の項目において、多職種との連携により退院支援計画書を

48時間内に作成し退院支援が図られていること。また、多職種カンファレンスを行い退院に向けての情報共有や問題解決への取り組みが優れ正在との評価を受けました。

患者支援室では、患者さんやご家族が退院や退院後の生活への不安が軽減できるように意思決定場面に同席し、よりよい選択ができるようにサポートしております。また、早期にケアマネージャーや地

域在宅介護事業等へ密な連絡を行ない、より確かな情報収集と提供により患者さんが安心して社会生活に復帰できるように地域との連携に努めています。

また今回の評価で、多職種カンファレンスの見直しの徹底がされると更に良いとの課題もいただきました。そこで、多職種とカンファレンスの現状を検証し、より良い多職種カンファレンスのあり方について現在検討しています。

平成30年度の診療報酬改定では「入退院支援

患者支援室 唐田 裕恵

」という新たな評価に変わり、早い段階から地域に目を向けて取り組みが必要となりました。外来と入院病棟との連携体制の構築と、更に多職種との協働を促進し患者さんやご家族にとって有益な入退院支援ができるよう努めてまいります。



# 師長紹介



平素より先生方には大変お世話になっております。今年度4月より、本館3階南病棟師長を拝命いたしました。3階南病棟は、3階南フロアに27床、4階南フロアに21床のサテライト形式の病棟を併せ持つ計48床の病棟です。主に消化器内科、呼吸器内科、代謝内科を中心とした

内科病棟ではありますが、鼠径ヘルニアや虫垂炎、腹腔鏡下胆囊摘出術等の手術を受ける患者様もご入院いただいております。近年、後期高齢に加え独居や認知症等の社会的問題を抱えた入院患者様が増えています。また退院しても継続した医療介護が必要な患者様が多いいらっしゃいます。そのような患者様が急性期の検査や治療を終え、速やかに元の生活に戻れるよう多職種と協働しながらチーム医療に

三階南病棟師長 中村 紘美

取り組んでおります。住み慣れた地域で安心して生活していただける為には、ご紹介頂いた病院・施設の方々との連携が重要だと考えます。病院理念にある”かかってよかつた””紹介してよかつた”と多くの患者様、会員の先生方に感じていただけるよう病棟スタッフ一丸となり努力して参ります。今後ともご指導のほど宜しくお願ひいたします。

## 3年間の 食物負荷試験を 振り返って



小児科の三角です。3年前から当院の小児科でお世話になっております。現在、週2回の食物アレルギーの負荷試験を西医師と一緒に行っています。この3年間、毎年240名前後のアレルギー疾患の患者様をご紹介いただきました。200名以上が食物アレルギーの紹介で、大部分を占めています。まず、初診の外来で食物アレルギーの経過

を伺い、必要時に適宜食物負荷試験を施行しております。負荷試験の施行数は、初年度が347件で、2年目390件、3年目460件と徐々に増加しています。食材は卵の負荷試験が最多です。3年間で卵の初回の負荷試験は384件で、平均年齢は2歳4ヶ月でした。負荷試験を行う前の卵の摂取状況として、完全除去していた症例と、一部少量の加工品を摂取していた症例が半数ずつでした。負荷試験後の摂取状況は完全除去を続けた症例は3%のみで、加熱卵を除去

小児科 三角 祥子

解除できたものは35%で、一部の加工品は摂取可としたものが62%と負荷試験によって摂取を進めることができました。

近年、経口的に食物を摂取することで免疫寛容が誘導されます。完全除去する期間を短くし、少量でも摂取を進めることで、食物アレルギーの予後を改善することができます。

今後も負荷試験を励行し、熊本の子供たちのアレルギーを改善していきたいと思います。

# 抗菌薬適正使用支援チームの発足

感染管理認定看護師 長尾 美鈴

抗菌薬適正使用支援チーム(AST : Antimicrobial Stewardship Team)を4月に立ち上げ、毎週月曜日15時からICTラウンドとASTカンファレンスを行っています。カンファレンスでは、対象患者を抽出し、細菌検査が行われているか、抗菌薬の選択や投与量は適正か、投与期間が必要に



長くなつてないかなどをチェックします。また、感受性結果から狭域抗菌薬に変更をすすめるなど、適切な抗菌薬の使用について、主治医に助言します。

5月24日には、第1回目の「抗菌薬適正使用」の研修会を医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師を対象に開催しました。横田薬局長から当院の特定抗菌薬の説明に加え、抗菌薬を経験に基づき使用(empiric)後、培養結果を基に起炎菌に感受性のある抗菌薬に変更(de-escalation)することが、耐性菌の蔓延を防止することに繋がると説明が行われました。

更に、病院が変われば感受性も変わることが説明され、当院のアンチバイオグラムの紹介が行われました。田上感染管理認定看護師からは、empiric治療からde-escalationする際に培養検査・感受性結果は、必要不可欠であり培養検査を行う意義が説明されました。

今後、耐性菌の出現ができる限り最小にとどめ、いち早く感染症治療が完了でき、患者さんに「かかってよかったです」と思っていただけるよう、院内のみならず地域にも目を向けて抗菌薬の適正使用を支援していきたいと思います。



## 次回の 熊本地域医療センター勉強会 のお知らせ

日時／7月23日(月) 19時開始

場所／熊本地域医療センター本館2階多目的ルーム

呼吸器内科 津村 真介 先生 「気管支喘息の新展開：新しい検査・新しい治療」

CC 79：気管支喘息

院長：清住 雄昭  
発行責任者：地域医療連携室長 柳 文治  
熊本地域医療センター〒860-0811 熊本市中央区本荘5-16-10  
電話番号(代表) 096-363-3311 FAX 096-362-0222  
電話番号(直通) 096-366-1323 FAX 096-363-3416  
E-mail:renkei@krmc.or.jp ホームページアドレス:<http://krmc.or.jp>

編集後記

Y@暑中お見舞い申し上げます。日本代表の活躍をはじめ、盛り上がったサッカーワールドカップも終わり、大雨、酷暑と厳しい夏となっています。震災から二年、当院では医療評価受審、抗菌薬適正使用支援チーム発足など新しい取り組みを続けています。皆様のご自愛をお祈りいたします。

S@ボウリング大会、ビアパーティー…と病院の行事も目白押しです。センターだよりへの寄稿もお楽しみに(^o^)